桜土手古墳展示館平成 23 年度　秋季特別展

秦野の原像-Ⅵ　平沢同明遺跡

平成 23 年 10 月 15 日(土)～11 月 27 日(日)

平沢同明遺跡（平成 9 年撮影）

はじめに

秦野市内南小学校西方、神奈中バス折返点「畑中」バス停周辺の小田急線の南方に広がる微高地は、平沢遺跡のなかでも特に「平沢同明遺跡」の名で呼ばれ、東日本でも数少ない縄紋時代から弥生時代への移行期の様相を示す遺跡として注目されてきました。

この遺跡に最初に発掘調査が行われたのは、今から 45 年前のことでした。当時、東日本では、弥生時代は西日本よりかなり遅れて始まったと考えられていました。南関東で確認されていた最古の弥生土器は、弥生時代中期前葉のもので、その土器は出土地の足柄上郡山北町字堂山の字名をとって「堂山式」と呼ばれていました。

しかし、平沢同明遺跡で縄紋時代終末の土器と共に弥生時代前期にまでさかのぼる土器が発見されたことにより、南関東における弥生時代の開始時期が見直されることとなったのです。

平沢同明遺跡の概要

2004-05 地点 2 号住居址出土土器（縄紋時代後期）

平沢同明遺跡から出土した最古の遺物は 16000 年ほど前の縄紋時代草創期の「有舌尖頭器」という槍先として使用された石器です。ただし、この遺物一点のみの出土で、人々の生活の場として積極的に利用されたとは考えられません。

また、2004-05 地点の調査では縄文時代早期、前期の土器片が出土しているものの、微細な破片数点に止まっています。

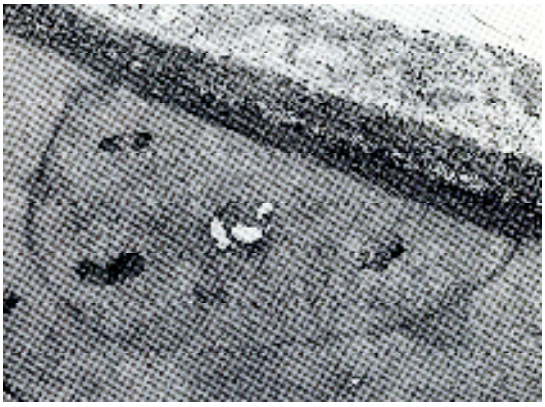
この地が集落として発展して行くのは縄紋時代中期以降になってからで、これまでの調査で縄文時代中期後葉の土器を埋設した遺構や、土壙墓と思われる遺構が出土しています。

秦野盆地内では、縄紋時代中期後葉から後期前葉にかけて各地に集落が営まれており、東地区の寺山遺跡、西地区の堂坂遺跡、北地区の稲荷木遺跡、平沢同明遺跡周辺でも太岳院遺跡や今泉峰遺跡などが知られています。

しかし、これらの遺跡でも縄紋時代晩期までには集落の規模が縮小し、弥生時代初頭まで継続して多くの遺物を出土するのは平沢同明遺跡のみという状況です。

縄紋時代晩期から弥生時代初頭の遺構は、遺構が掘り込まれた土層と、それを埋めた土の区別がつきにくいことから平沢同明遺跡にあっては検出が非常に困難です。このため、これまでの調査で大量の遺物が出土しているにもかかわらず住居跡は一件も確認されていません。しかし、煮炊きに使われた形跡のある土器や、イノシシやシカの歯や骨片が出土し、焼土の痕なども検出されているため、集落が営まれていた事は確実と思われます。

ところが、南関東で本格的に水稲耕作が行なわれるようになる弥生時代中期中葉以降の遺物は極端に少なくなり、わずかな数の土器片が出土したにとどまっています。縄紋時代から弥生時代への移行期をこの地で迎えた人々は、長年住みなれた土地を捨ててどこへ行ったのでしょうか。



2004-05 地点 2 号住居址（縄紋時代後期）

平沢同明遺跡から人々が去った時期に前後して、大根地区の沖積平野を望む台地上に砂田台遺跡や根丸島遺跡といった集落が発達します。平沢同明遺跡の人々も水稲耕作に適した沖積台地を望む台地上に移り住んでいったと考えられます。

遠賀川系土器

平沢同明遺跡出土遺物の中で最も注目されるものといえば平成 15 年 2 月 10 日に神奈川県重要文化財に指定された「弥生前期壷形土器」でしょう。

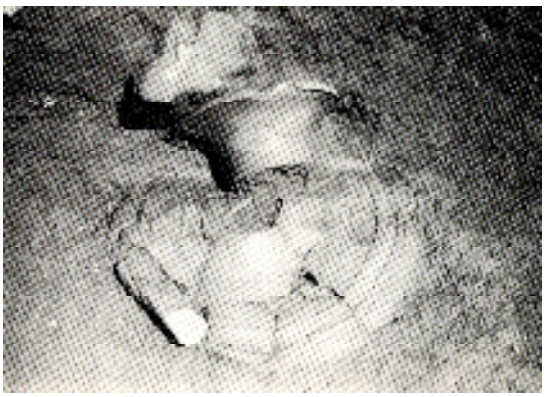
北部九州地方で成立した「遠賀川式」土器の系統をひくもので神奈川県域へ弥生文化をもたらした象徴的な資料であるという位置づけがなされています。

神奈川県重要文化財「弥生前期壷形土器」

「遠賀川式」土器は西日本の弥生時代前期の土器の総称で、例は少ないもののその影響を受けた土器が関東東北地方でも出土しています。これらの土器は本場のものと区別して「遠賀川系」土器などと呼ばれています。

平沢同明遺跡の第４次調査で出土した遠賀川系土器は、その最も新しい段階に伊勢湾岸で地域化した大型壷で、赤褐色を呈し、胴が大きく張り出すなどの特徴を持っています。

上部に人頭大の石が置かれた状態で単独で埋設されており、内部から粉末状の骨らしきものが検出されたことから、再葬墓（一度埋葬し骨化した遺体を土器に収納しなおして埋葬した墓）と考えられています。



神奈川県重要文化財「弥生前期壷形土器」出土状況

平沢同明遺跡では、これまでの調査で十数個体分の「遠賀川系」土器が検出されていますが、この数は東日本では群を抜いて多く、神奈川県重要文化財指定の壷形土器のようにほぼ完全な形のものは本場の伊勢湾岸にも稀な資料です。

東西文化の交流地点

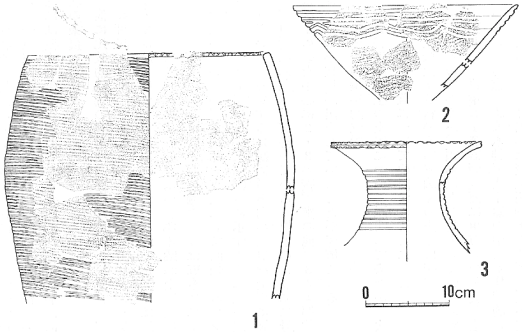
第 5 次調査で検出されたＦ９ｂ土壙

からは「遠賀川系」の壷形土器口縁～頚部周辺破片に伴い、在地性の強い条痕紋甕形土器、東北の亀ヶ岡式の影響を受けた鉢形土器が出土しました。

鉢形土器は文様から従来神奈川県内で出土例の少なかった縄紋時代最終末期のものとされ、それが遠賀川系土器と同時に使用、廃棄されたことを示すこの一括資料は、まさに南関東における縄紋時代から弥生時代への移行期のものとして重要なものといえるでしょう。

Ｆ９ｂ土壙一括資料

（下図は実測図）



祭祀遺物と石鏃

これまでの調査で出土した遺物のうち土器以外のものに目を向けると、まず多様な祭祀関連と思われる遺物が目に付きます。土偶をはじめとして、石剣や独鈷石、石冠といった石器が出土しており、こうした石器類の多くは火を受けて割れています。

また、石鏃の多さも特筆されるものと思われます。この地では 1990 年代ぐらいまで、畑の中から黒曜石や黒色安山岩製の石鏃が採集でき、これまでの発掘調査の出土品や採集品を合わせると千点をはるかに超えています。既述のイノシシやシカの歯や骨片の出土とも合わせて考えると、恐らくは縄紋時代の終末期に、かなり狩猟に偏った生活をしていたことが想定されます。祭祀遺物はその収獲の多からんことを祈ったものだったのでしょうか。しかし、その食糧獲得方法は、やがて「水稲耕作」という全く違った方向に向かうことになったのでした。

＊秦野市の遺跡台帳では、「平沢同明遺跡」は平沢遺跡の中に包括されており、同名の遺跡は存在しません。しかし、学史・研究史上その呼称が広く知られていることから、今回の展示にあたっても便宜的に「平沢同明遺跡」の呼称を使用しました。

秦野の原像-Ⅵ　平沢同明遺跡　〒259-1304 神奈川県秦野市 380－3
発行　平成 23 年 10 月 15 日　Tel. 0463－87－5542
編集　秦野市立桜土手古墳展示館　FAX 0463－87－5794